



学校だより

(7月号) 令和5年6月30日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

◎ 夢(ゆめ)にむかって ともに学びあう学校

- ・すすんで勉強する子
- ・自分からあいさつのできる子
- ・仲よくたすけあう子
- ・じょうぶな子

《今月の生活目標》 ろうかは静かに右側を歩こう

自分にできること

～盲導犬ユーザーの方のお話を通して～

校長 白石 徳一郎

盛夏の候となりました。PTA・地域の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、本校はユネスコスクールとして、人権教育、福祉教育、環境教育、「小さな親切」運動等に力をいれています。ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章の理念に基づき、平和・人権や環境保全などの教育に力を入れている学校のことです。5月25日に5年生の児童が総合的な学習の時間「だれもが暮らしやすい生活について考えよう～自分にできること～」で、盲導犬ユーザーの井出 茂樹 様にお話を伺って、福祉について学習しました。福祉の学習で**最も大切なことは当事者の方のお話を聞くことだ**と思います。子どもたちは井出様から直接お話を聞くことで、実感をもって学ぶことができました。また、6年生の子どもたちが井出さんを見かけて「井出さん」と声をかけていました。井出さんは、昨年お話をした子どもたちが名前を覚えてくれたことをとても喜んでいました。今後も5年生の学習として続いていくといいと思います。

お話は前半が視覚障害者についての内容、後半が盲導犬についての内容でした。まず、視覚障害者の中には**目が見えにくい人がたくさんいる**ことを教えていただきました。視野狭窄について、周辺が見えない人の視野を疑似体験するために、片目を押さえて、もう片方の目で少し開いた握りこぶしの中から覗く体験をしました。視野の中央が見えない人の疑似体験は、同じく片目を押さえて、もう片方の目の前に握りこぶしを当てて体験しました。視野狭窄は針の穴くらいしか見えない人がいたり、見える部分も白濁してはつきりは見えない人がいたりすることを教えていただきました。



次に白杖の使い方について教えていただきました。木の枝や、車のサイドミラーなどの出っ張っている障害物は白杖では気が付かないので、教えてもらえると嬉しいというお話でした。そして、目が不自由な方をお手伝いする方法として、道案内を例にとって教えていただきました。**子どもたちは、困っている人がいたら「どうしましたか?」「何かお手伝いできることはありますか?」など、声をかけることが大切であることに気が付きました。**また、声をかける時ははつきり大きな声で話すこと、後ろからではなく**前から声をかけること**、肩や腕につかまっていたいただいて道案内する時も、急に歩き出すのではなく**「歩きます」「段差があります」「右に曲がります」**など声をかけながら歩くこと、立ち去る時も**声をかけてから立ち去ること**などを、実際の場面を再現しながらわかりやすく教えていただきました。この学習をこれからの生活の中で生かしてもらえたらと思います。

学習後に児童が井出様にお送りしたお手紙の一部を紹介します。

- ・びっくりしたことは、井出さんは真ん中がボカンと見えなくなっていて、目が見えない人の中には針でポツンとあけた時くらいしか見えない人もいますということです。もし、目が見えない方がいたら助けてあげたいです。
- ・私は目が見えない人以外でも困っていたら助けようと思いました。目が見えない人が杖を使っていたら、前から声をかけて、目的地までたどり着いたら、しっかり「着きましたよ。」と言って、これでいいか確認するようにしたいです。
- ・これからぼくは、目の不自由な人を見かけたら、井出さんの教えてくれたとおりに助けます。
- ・これからは目の不自由な人に声をかけたり、一緒に歩いたりしたいです。できたら道を案内して、最後まで優しく見守りたいです。
- ・これから、人の助けになるような人になりたいなと思いました。

困っている人を見かけたら声をかけるということは、生活をしていく上で大切なことだと思います。夏休みの自由課題に『「小さな親切」作文コンクール』がありますが、この機会に親切について考え、困っている人がいたら助けよう、親切をしようと思って生活できると素晴らしいと思います。右のイラストは、埼玉県社会福祉協議会 埼玉県ボランティア・市民活動センターが発行している福祉教育啓発パンフレットの一部分ですが、例えば、物を落とした人がいたら拾うのを手伝う、物を運んでいる人がいたらドアを開ける等も小さな親切だと思います。よい行いに進んで取り組む子、思いやりのある子が増えていくことを願っています。また、声をかけることが大切なので、その第一歩として、子どもたちには日頃から**しっかり声を出してあいさつをする習慣を作**ってほしいと思います。ご家庭でもお話しいただけたら幸いです。



(福祉教育啓発パンフレット「ともに生きる『ふ・く・し』」について 埼玉県ボランティア・市民活動センターHP より)

